第 7 章

計画の推進に向けて

7-1　目標値の設定
7-2　計画の評価・見直し

7-1　目標値の設定

評価指標及び目標値は、まちづくりの方針（ターゲット）に掲げている「都市機能」、「居住」、「ネットワーク（公共交通）」のそれぞれの誘導及び「防災」の、合わせて４つの視点から設定する。

7-1-1 都市機能に関する評価指標及び目標値

都市機能の誘導に関する進捗状況を評価するに当たって、都市機能誘導区域内への誘導施設の立地の状況を指標として設定し、将来の目標値を以下のとおり設定する。

表 7-1　施策による効果を検証する指標・目標値（都市機能）

指標	基準値 【令和５年（2023 年）】	目標値 【令和 25 年（2043 年）】
都市機能誘導区域内の 誘導施設の立地状況	22 施設	22 施設

7-1-2 居住に関する評価指標及び目標値

居住誘導区域は、人口減少下にあっても一定の人口密度を維持することが求められる。このため、居住に関する進捗状況を評価するに当たって、居住誘導区域内の人口密度を指標として設定し、将来の目標値を以下のとおり設定する。

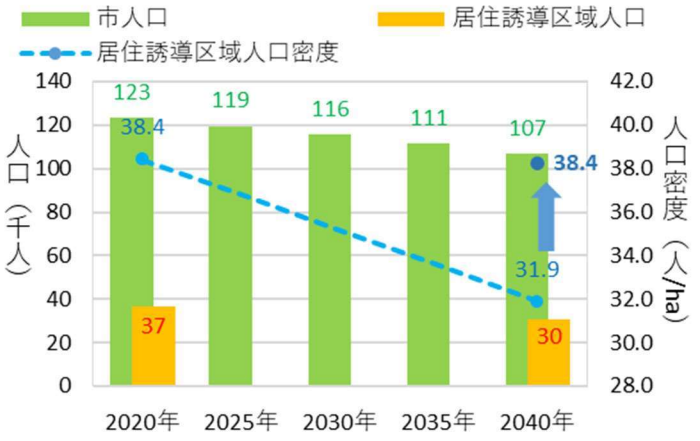
表 7-2　施策による効果を検証する指標・目標値（居住）

指標	基準値 【令和２年 （2020 年）】	社人研推計値 【令和 22 年 （2040 年）】	目標値 【令和 22 年 （2040 年）】
居住誘導区域の人口密度	38.4 人/ha	31.9 人/ha	38.4 人/ha

■目標値の設定

国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計では、本市の人口は今後継続して減少する見通しであり、令和 22 年（2040 年）には居住誘導区域の人口密度は 31.9 人/ha まで減少すると予測されている。

人口減少が予測される中にあっても、本計画に基づき、都市機能と居住の立地の適正化を推進することで、居住誘導区域内の人口密度（令和２年〔2020 年〕）を維持することを目指す。



7-1-3 ネットワークに関する評価指標及び目標値

ネットワークは、「都市核」と「地域拠点」、「都市核」と市内各地を結んでおり、一定の利用を維持していくことが求められることから、公共交通の利用者数を指標として設定し、将来の目標値を以下のとおり設定する。

表 7-3 施策による効果を検証する指標・目標値（ネットワーク）

指標	基準値 【令和４年（2022 年)】	目標値 【令和 25 年（2043 年)】
公共交通を利用する 市民の割合 （市民意識調査による 公共交通の利用頻度）	6.0%	10.0%
日常生活で移動に不便を感 じている市民の割合	38.5%	35.0%

7-1-4 防災に関する評価指標及び目標値

防災指針に示した取組方針、具体的な取組を踏まえ、災害リスクの低減に係る指標を設定し、将来の目標値を以下のとおり設定する。

表 7-4 施策による効果を検証する指標・目標値（防災）

指標	基準値 【令和５年（2023 年)】	目標値 【令和 25 年（2043 年)】
きりしま防災・行政ナビ （アプリ）のダウンロード数	9,000 ダウンロード	18,000 ダウンロード
要配慮者利用施設の 避難確保計画の作成数	66%（108 件/164 件）	100%（164 件/164 件）
土砂災害特別警戒区域等 からの住宅の移転	なし	1 件以上の実施

7-2 計画の評価・見直し

本計画における施策・事業の取組状況を概ね５年ごとに評価し、必要に応じて計画の見直しを行う。



図 7-1 PDCA サイクル